

希望の虹

[聖書] 創世記9章8～17節

神はノアと彼の息子たちに言われた。「わたしは、あなたたちと、そして後に続く子孫と、契約を立てる。あなたたちと共にいるすべての生き物、またあなたたちと共にいる鳥や家畜や地のすべての獣など、箱舟から出たすべてのもののみならず、地のすべての獣と契約を立てる。わたしがあなたたちと契約を立てたならば、二度と洪水によって肉なるものがごとく滅ぼされることはなく、洪水が起こって地を滅ぼすことも決してない。」

更に神は言われた。「あなたたちならびにあなたたちと共にいるすべての生き物と、代々とこしえにわたしが立てる契約のしるしはこれである。すなわち、わたしは雲の中にわたしの虹を置く。これはわたしと大地の間に立てた契約のしるしとなる。わたしが地の上に雲を湧き起こらせ、雲の中に虹が現れると、わたしは、わたしとあなたたちならびにすべての生き物、すべて肉なるものとの間に立てた契約に心を留める。水が洪水となって、肉なるものをすべて滅ぼすことは決してない。雲の中に虹が現れると、わたしはそれを見て、神と地上のすべての生き物、すべて肉なるものとの間に立てた永遠の契約に心を留める。」

神はノアに言われた。「これが、わたしと地上のすべて肉なるものとの間に立てた契約のしるしである。」

[序] 廃墟で見上げる虹

先日 TV の教育番組で俳句の句会をみました。季題は虹です。グループ全員の票を集めた句は「いっせいに虹を見に出るボランティア詰所」でした。津波で廃墟にされた被災地で、片付け作業に疲れを休めていたボランティアの人たちが、詰所から飛び出して、虹を見上げている光景が浮かんできます。

この廃墟から、町と人々の暮しが果たしてどのように再建されていくのでしょうか。暗澹たる思いに心が沈んでいきます。「あっ、虹が出た!」。一同が詰所から飛び出して空を見上げます。皆の心に希望の光がさし込んできて元気を取り戻したという句でしょうか。

今日の聖書は、地上を一掃する大洪水の後で、神さまが、虹をもって永遠の契約のしるしとされたお話です。ノアが作った大きな箱舟に関心が集まりがちな洪水の話ですが、虹に焦点を絞ってメッセージを汲み取ることにいたしましょう。

[1] 箱舟の建造

神さまは天地万物を非常に良いものとして創造されました。すべての生き物は青草と木の実を食べ物とし、殺生のない世界でした。しかしアダムとエバは「これだけは決して食べてはならない。食べると必ず死ぬ」と言われていた善悪の知識の木から禁断の実を食べてしまいました。人がそれぞれ自分で善悪を判断するようになれば、善悪の判断が乱れます。エデンの園は失われてしまいました。

その結果発生したのが、人が人を殺すという悲劇でした。兄カインが弟アベルを殺してしまったのです。カインは両親のアダムとエバの家を出て、地をさすらう者になりました。スイートホームが崩壊してしまいました。こうして人が増えていくに従い、悪を善だと思ってしてしまう行いから争いが生じ、人の悪が地上に満ちていきました。神さまは地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められました。そして遂に、人も生き物もすべてを地上から拭き去る決心をされました。

しかしノアに目をとめた時、神さまは決心を変えられました。「ノアは神に従う無垢な人だった」(6:9)からです。口語訳や新改訳では「正しく、全き人」と訳していますが、非のうちどころのない完成された人格者という意味ではないでしょう。ノアは大洪水を生き延びた後で、農夫になりぶどう畑をつくり、ぶどう酒を飲み過ぎて醜態を演じています。ごく普通の人間の一人でした。

でも一つだけ優れた所がありました。神さまがアダムとエバに心から望まれたこと、すなわち「神に聞き従い、その言葉にどこまでも従おうとする心」を持ち続けていた点です。自分勝手に善悪を判断して行動しようとする心の垢がついていなかったのです。ですから新共同訳の「神に従う無垢な人」という訳の方が適切だと思います。

神さまはノアに大きな箱舟を建造するようお命じになりました。長さ 140m、幅 23m、高さ 14m、今でいうと大型トラック 130 台、乗用車 150 台を同時に運べる約 15000 トン級の大型フェリーに匹敵するそうです。大昔のそのまた大昔ですから巨大な船だったことでしょう。一体どれほど大量の木材が必要だったのでしょうか。資材の運搬を考えると、山の森の中で造り始めたのではないのでしょうか。船を山で造り始める——物笑いの種になったに違いありません。

主イエスはこうお語りになっています。「洪水になる前は、ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていた。そして洪水が襲って来て一人残らずさうまで、何も気がつかなかった」(マタイ 24:38～39)。神の裁き、大洪水が起こるといふノアの恐れを聞いて「本当にそうだ。世の中がこのままでは、神の裁きが起こって当然だ。自分たちも手伝います。一緒に船に乗せてください」と申し出る人が居てもよさそうですのに、結局協力する人は現れなかったのです。

だからノアの家族だけで箱舟を建造したとなりますと、50 年はかかっただろうとある人は言っています。ノアはなんと根気強い人でしょうか。3人の息子たち夫婦も偉かった。たいていの息子たちなら「親父の道楽には付き合い切れない」と途中で逃げ出していたでしょう。聖書は「ノアはすべて神が命じられたとおりに果たした」と繰り返し述べています。ここにノアの神に従う無垢な人柄が現れています。だからこそ神さまはノアをお選びになったのでしょう。否、神さまの警告を最後まで信じ抜いたのが、ノアだけだったと言った方が正しいかも知れません。

ですからノアは、新約聖書ヘブライ人の手紙に、アベル、エノク、アブラハムと並んで信仰者の模

範として記されています。「信仰によってノアは、まだ見ていない事柄について神のお告げを受けたとき、恐れかしくみながら、自分の家族を救うために箱舟を造り、その信仰によって世界を罪に定め、また信仰に基づく義を受け継ぐ者となりました」(11:7)。

[2] 大洪水後の永遠の契約

遂にその日がやってきました。神さまの言葉に従って箱舟にノア一家と生き物が乗り込んだ 7 日後に、大変な豪雨が 40 日 40 夜降り続き、地の一切は沈んでしまいました。150 日後から水が引き始め、丸1年後にノアたちは箱舟から地上に降り立つことが出来ました。再び大地の上での生活が始まったのです。ノアは祭壇を築き、焼き尽くす献げ物をささげて礼拝しました。

神さまはご自分の心の中で言われました。「人に対して大地を呪うことは二度とすまい。人が心に思うことは、幼いときから悪いのだ。わたしは、この度したように生き物をことごとく打つことは、二度とすまい」(8:21)。二度とすまいという言葉を繰り返しておっしゃっています。神さまご自身がこの洪水を起こしたことに、どれほど心を痛め、悔いられたかが、しのばれます。私たちが今日このように生かされているのは、神さまがあの洪水に心を痛め、深く悔いて下さったからなのですね。

神さまは、改めてノアと息子たちを祝福されました。「産めよ、増えよ、地に満ちよ」。しかし神さまの祝福には、創世記1章の祝福(1:28~30)とは大きな違いがありました。それは人間が他の生き物を食べることをお許しになった点です。それは人間の欲が深まり、食べ物に対する好み一つをとっても、青草だけではとても満足しないで罪を犯すと、懸念されたからでしょう。つまり神さまの人間に対する要求水準が、ぐんと引き下げられたのです。

そして洪水によって肉なるものをことごとく滅ぼし、地を滅ぼすことを決してしない契約を立てると約束されたのでした。その上で神さまは更にこの契約のしるしとして、雲の中に虹を置くことにされました。それは雲を沸き起こし、虹が現れるのをご覧になるたびに、神さま自身が今後洪水を起こしてすべてを滅ぼすことをしない契約を心に留めようとされたからでした。私たち人間に対する神さまの憐れみの、なんと深いことでしょうか。

虹はヘブル語では弓とも訳される言葉です。神さまは「わたしは雲の中にわたしの虹をく」(9:13)とおっしゃいました。これは「わたしは雲の中に弓(武器)を置いて、もう力尽くでは滅ぼさないという契約を、あなたたちと結んだのだよ」という御心を言い表しておられるのです。たとえ人の悪がどれほどひどくならうとも、ことごとく地を滅ぼすことはしないという、赦しの愛の宣言です。このように虹には「滅ぼさない」と「赦す」という神さまの憐れみ、愛の約束が込められている。そして神さまは虹が現れる度に、その約束を思い出してご自分で確認してくださるのです。だから虹は希望のシンボルとして私たちの心を打つのではないのでしょうか。

[3] 危機を自覚して

私たちは現在、福島原発の原子炉3機のメルトダウンという事故レベル7の危機に直面しています。

震災後3日間で1～3号炉の炉心が溶けて炉の底にたまり、炉に穴をあけ、また爆発して、放射能を発散させ、汚染水を流れ出しています。事故を收拾する目途が立っていません。廃炉するにも30年かかると言われています。避難住民は一体何時、戻ることができるのでしょうか。25年前のチェルノブイリ原発事故では今日でも、30キロ圏内だけでなく、北東の350キロにわたり高濃度汚染地域100箇所が居住禁止となっています。原発の安全神話は破綻をきたしました。

私はノアが直面した洪水の物語を学びながら、「ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていた。そして洪水が襲って来て一人残らずさうまで、何も気がつかなかった」という主イエスの言葉が心に突き刺さりました。

何も気がつかなかったのではありません。多くの人はノアが長い年月かけて、山で大きな箱舟を建造していることを知っていました。大洪水という神の裁きに備えているノアの真剣な姿を知っていました。しかし「えっ、ほんと?」「まさか」「そんなこと」と深刻に受取ることを避け、努めて安易に考え、楽な生き方に身をまかせたのです。知っていても自分が対応しないならば、何も知らないのと同じです。

原発事故は、野放図に電力を消費する贅沢な生活への警鐘です。私たちは生活を改善し、簡素な賢い生き方を選びとる決断を迫られています。ノアが箱舟を造って生き延びた大洪水は、「神が人を造ったことを後悔し、心を痛められた」と記すほど地に増していく人の悪に対する深い悔い改めを、私たちに迫っているのではないのでしょうか。

神さまは、二度と洪水を起こさないと決心なさり、赦しと愛の契約を結び、虹をそのしるしとされました。そして私たちの罪深さに対する赦しと憐れみの究極として、神さまは十字架の救いをもたらしてくださいました。イエス・キリストとなってこの世に来てくださり、人の一切の罪をご自分の身に引き受けて十字架につき、贖いの死を遂げ、すべての人に赦しと新しい命を与えてくださいました。イエス・キリストを自分の救い主と信じる者は、誰でもそのまま神の子として生きる恵みをいただけます。

シンガポールの日本語教会がクリスマス礼拝に使わせて頂いた聖アンデレ教会は高い天井を見上げると、船底になっています。ノアの箱舟を念頭に置きながら建築されたのだそうです。そうです。教会はこの世におけるノアの箱舟です。教会に集まって礼拝している私たちは、ノアの後に続く者です。ノアは「不法が地に満ちている。見よ、わたしは地もろとも彼らを滅ぼす」(6:13)という神さまの言葉を聞いた時、深い恐れをもって自分の家族を救うために箱舟を造り始めました。そうです。罪の行き着く所は死と滅びです。その事実を自覚しましたから、私たちも救いを求めるようになりました。

そして神さまがイエス・キリストの十字架の救いを備えてくださっていると聞き、聖書を学び、イエス・キリストこそ私たちを罪から救ってくださる救い主だと信じて、バプテスマを受けました。神さまが備えてくださった教会という箱舟に、信仰をもって入ったのです。

[結] 私たちの箱舟

ノアはブドウ酒を飲みすぎて醜態を演じてしまう普通の人でした。私たちも同じです。でも箱舟の中に身を置こうとする信仰を持っている点で、ノアの後に続く者です。多くの人は、悪に対する神さまの裁きを深刻に受けとめません。でも私たちは悪が私たちを滅ぼすものであることを自覚しています。

神さまは箱舟を造ってその中に入れとお命じになりました。私たちは今、川越教会の中に身を置いています。ノアは何年もかかって箱舟を造り上げました。私たちも教会を大切に、悪の恐ろしさと、このままでは滅びが来ることを、世の人に向かってあかしし続けて参りましょう。

そのために教会の礼拝を大切にしましょう。毎日の生活の中でも聖書を読み、神さまの言葉に耳を傾け、祈りを通して神さまの霊・聖霊の力をいただき、御心を実践して参りましょう。

ノアの信仰が家族と周りの動物たちを救いました。「主イエスを信じなさい。そうすればあなたもあなたの家族も救われます」(使途 16:31)。ノアはその信仰によって、今日も私たちに語りかけています。私たちの箱舟である川越教会を、しっかり造り上げて参りましょう。

完